

冬合宿：八ヶ岳 阿弥陀岳北稜

- ◆日程 2019年12月30日(月)
- ◆メンバー L：佐藤，河野，岡村
- ◆天候 曇のち雪

冬合宿最終日の朝，行者小屋から下山する皆と別れた。今回，河野さんをお願いして阿弥陀岳北稜を舞台に冬のバリエーションルートの手ほどきを受けることになった。3人で行く予定だったが佐藤さんは，テントキーパーをすることになった。

穏やかな曇天。中岳道を尾根に上がるポイントを探して歩き，ちょっと平らになるな，と思える所で右に一般ルートを逸れて行った。雪が少なく，ハイマツをかき分ける。

その後，雪稜に出る。トレースもあるし難しい要素もなく，ピッケル片手に進む。他パーティの「ビレイ解除〜！」が聞こえた。途中でカクッと左に曲がり，その先に岩稜が出現した。

1ピッチ目，河野さんリード(写真)。岩稜を少し左に回り込んだところから登る。ダブルロープでビレイ。解除の声がかかり，登る準備。ところがオーバー手袋だとエイトノットも容易ではない。ハーネスに直接結ぶのをあきらめ，カラビナにかけた。ピッケルはザックの肩紐にさした。ホールドもスタンスも岩で，アイゼンが擦れてキーキー鳴いた。かじかんでいるのと，オーバー手袋で感触がつかみにくいので，ホールドに信頼がおけない。やってみて難しさが分かった。アイゼンでザイルを踏まないようにというのも気を使う。



2ピッチ目は，岡村がリード。最初は岩稜だが，どこを登っていいか難しい。下から河野さんの指示を受けて登る。中間支点をとれる場所を見つけられなかった。その先は雪稜で，ピッケルを取り出し，ここは危ないことはないなあ，と思って進んだ。そのせいで，中間支点をとらないままとなってしまった。これはまずい。

3ピッチ目，風雪が厳しくなる中，河野さんがリード。ヘルメットにフードだと周りがよく見えなかったので，フードは外した。最初一枚岩を越えると，急な雪稜。河野さんがビレイしてくれている場所に着き，解除。ピッケル片手に少し登ると頂上に着いた。

下山開始。文三郎尾根への分岐を目指すことを確認し，中岳を登り返していたところ，稜線は吹雪となった。視界は遮られ，風でよろついた。トレースもない。後ろから河野さんに呼ばれた。何か言っているが聞こえない。「きっと私を激励してくれているんだ」と思った。しばらく待っていたが河野さんはこっちに向かって来ない。「あ，これはなにか伝えることがあるんだな」と思い直し，戻っていくと「この状態で稜線に行くよりも戻って中岳道を下るべきだ」，「雪が少ないから雪崩の危険は少ない」という判断が示された。「どうなんだ，もう少しで中岳を越えるのではないか」と思ったが，その先も稜線は続くこと等を思うと，相当な判断であると思え，中岳道分岐に戻り，そのルートを下った。下るに際しては10m以上間をあけること，さっさと下ること，との指示を受けた。二人とも疲れていたが，何パーティか抜かして下った。

行者小屋で佐藤さんと合流。明日の荒天が予想されたことから，撤収して帰ることにした。佐藤さんはさわやかに下ったが，私は足を引きずる思いで下った。河野さんも同様だった。

本山行の準備会で私は「楽しみだ，楽しみだ」と言っていたそうだ。下山後，「だから，これは，なんとしても行こうと思った」と言って河野さんは笑った。そんな年末だった。(記：岡村)

CT：行者6：45 - 岩稜8：50 - 阿弥陀岳10：50 - 行者12：15/12：55 - 美濃戸口16：40